

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中20〉	いわき市立	好間	中学校
<実施日> 平成 27年 7月 8日 (金)				
<実践教科等> ※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 () <実践内容> 1. 導入 放射線の影響について知っていることを挙げる。 → 値が高いとその地域に住めなくなる、体に悪く、目に見えない、死亡する可能性がある、原子力発電に役立っている、癌になる、物を通り抜ける、体に影響を及ぼす、野菜などの生産地の不安、など (放射線について知り、健康への影響を考えよう。) 2. 展開 ① DVD「放射線教育用学習教材 中学校・高等学校用『放射線等についての学習資料』」を見た感想を述べる。 → 放射線の種類など、知らないことがたくさんあった、など。 ② 放射線の健康への影響を調べ、まとめる。 ※ 中学生のための放射線副読本資料「知ることから始めよう 放射線のいろいろ」(文部科学省)を配付 → 内部被ばくと外部被ばくがある、放射線が付着したり、受けたりすることで内部被ばくする、DNAを傷つける原因の一つ など。 ③ 放射線から身を守るために必要なことを考える。 → 放射線物質から距離をとる、放射線を受ける時間を短くする、コンクリートなどの建物に入る、定期的に検査をする、外に出ないようにする、など。 3. 終末 ※ 「どのように放射線は使われたのか」を配付 本時の授業の感想をまとめる。 → 放射線はたくさん種類があって複雑。悪い物だけではなく、たくさんのに役に立っていることに驚いた。				
<成果> 感想の中に「資料やDVDを見て、放射線が体に与える影響について学ぶことができた。また、自分の身の周りに数多くの放射線があることが分かったので、外出時は気をつけて生活したいと思います。」とあったように、放射線について知る機会を得ることができた。また、ただ有害であるだけではなく、レントゲンや食品の製造や保存など、様々なものに使われていることを理解することができた。加えて、日常生活の中で、放射線としっかり向き合っていかなければならないという意識をもたせることができた。				
<課題> 生徒の放射線に対する関心は、各家庭の影響が強いと考えられる。敏感になっている家庭もあればそうでない家庭もあるので、発問の捉え方にそれぞれ差があると感じた。単発の授業ではなく、総合的な学習の時間や通年での指導を段階的に行うことで、放射線に対する意識を高めていきたい。また、知識だけでなく、実際に放射線計測器を使って身の回りの放射線を計測することや、放射線の実験キットを使用するなどの活動も有効であると感じたが、それらの備品が乏しいことも残念に感じる。また、資料を見せるにあたり、原発関係者を身内にもつ生徒や、被災地から来ている生徒もいるため、震災を思い出させるような映像を見せることや、放射線の悪い影響を説明することに戸惑いを感じた。				
資料作成担当者職(教諭)氏名 (小林 一人)			学校電話番号 (36-2204)	

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。